

## がん患者の脳血管障害の退院支援

---

---

---

---

---

---

---

---



東京都に隣接する関東地方のB市に住むAさんは、一人住まいの68歳女性で、身長1m65cm、体重50kgです。(BMI 20.55)  
Aさんは、43歳のときに夫と離婚し、清掃作業のパートをして暮らしてきました。Aさんには45歳の一人娘がいます。娘は専業主婦で46歳の公務員の夫と共に東京都で暮らしています。

---

---

---

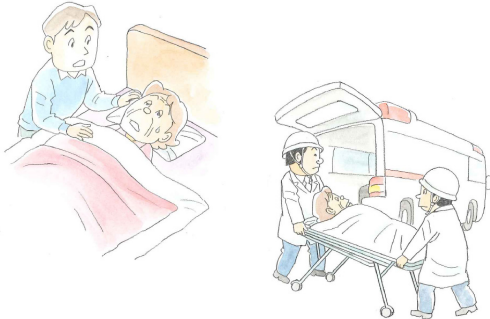
---

---

---

---

---



自宅で気分が悪いと横になっているのを隣の人が見つke、病院に行くかどうか聞いたところ、行きたくないと言ったため、様子を見ていました。  
翌日、隣の人が見に行ったら、言葉が話せない状態になっていたため、B市の総合病院(平均在院日数18日)に救急車で搬送され入院しました。

---

---

---

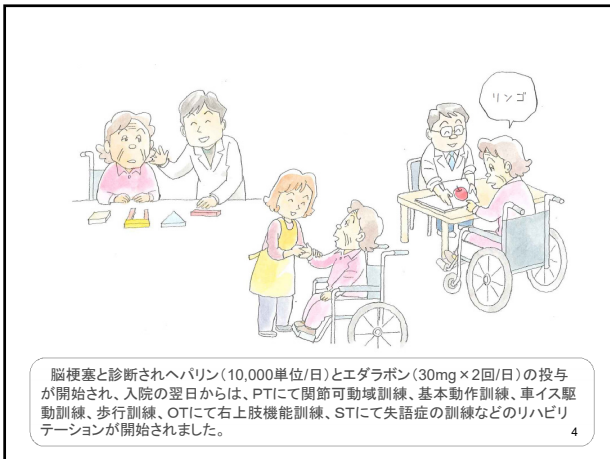
---

---

---

---

---



脳梗塞と診断されヘパリン(10,000単位/日)とエダラボン(30mg×2回/日)の投与が開始され、入院の翌日からは、PTIにて関節可動域訓練、基本動作訓練、車イス駆動訓練、歩行訓練、OTにて右上肢機能訓練、STIにて失語症の訓練などのリハビリテーションが開始されました。

4

---

---

---

---

---

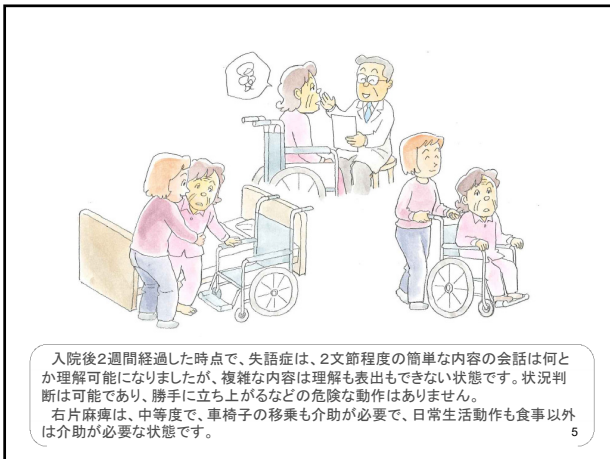
---

---

---

---

---



入院後2週間経過した時点で、失語症は、2文節程度の簡単な内容の会話は何とか理解可能になりましたが、複雑な内容は理解も表出もできない状態です。状況判断は可能であり、勝手に立ち上がるなどの危険な動作はありません。  
右片麻痺は、中等度で、車椅子の移乗も介助が必要で、日常生活動作も食事以外は介助が必要な状態です。

5

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



Aさんは入院した時に、右乳房の硬結が認められたため、娘に医師が確認したところ、娘は本人から近医で半年ぐらい前に乳ガンと診断されたけれども、治療はしたくないという話を聞いている、心配はしていたが自分の方も忙しいし、その後どうしていたかは分からないということでした。

乳ガンに関して、外科での検査の結果、胸壁浸潤、リンパ節転移があり、手術適応なく、薬物中心の治療になるため、入院治療をする適応はないとの診断になりました。治療をしない場合の予後としては、半年から2年程度が予想されました。

6

---

---

---

---

---

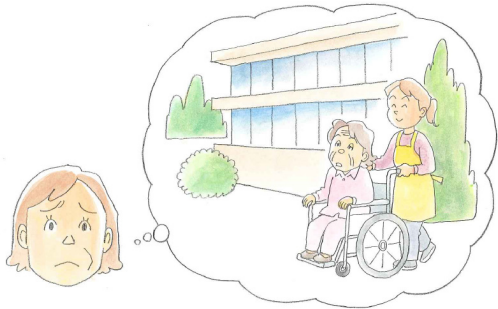
---

---

---

---

---



東京に住む娘が都内の回復期リハビリテーション病院への転院を希望したため、いくつかの回復期リハビリテーション病院に紹介状を送りましたが、いずれも乳ガンの専門医がいないとの理由で、転院を断られました。

7

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

■ 服薬内容

バイアスピリン(100)1T/1 × 朝



現在、バイアスピリン100mgを朝一回1錠、朝食後に内服しています。

8

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

項目	評価
Barthel Index	10
心身機能・身体構造 (Body Functions & Structures)	失語症(簡単な内容(2文節程度)の会話は何とか理解可能であるが、複雑な内容は理解も表出もできない) 右片マヒ(中等度)
活動 (Activities)	車椅子レベル(介助で車椅子に移乗、座位保持は可能であるが、駆動はできない)、食事はセッティング必要、その他のADLは要介助。
参加 (Participation)	独居、家庭復帰困難



リハビリや生活機能に関する評価は、表の様になっています。

9

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

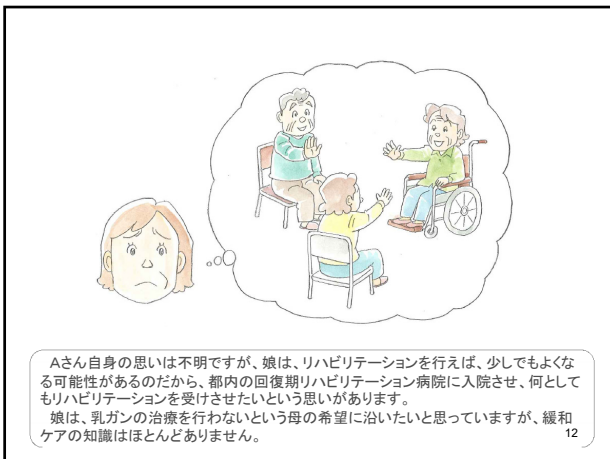
---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---



入院前は、娘は母親とは電話で数ヶ月に一回話したり、年に一回訪問したりする程度の関わりでした。  
娘には、2人の中学生の男子がいて、長男が高校受験なので、Aさんを娘宅に引き取ることはできない状況です。

13

---

---

---

---

---

---

---

---



Aさんの清掃作業のパート収入が唯一の生活費でした。そのため、貯金はほとんどありません。

14

---

---

---

---

---

---

---

---



これまでに福祉制度は利用したことはありませんが、現在、介護保険を申請しています。

15

---

---

---

---

---

---

---

---

娘さんは、リハビリが受けられたとしても、その後どうしたらいいのかについて不安を抱いています。

16

---



---



---



---



---



---



---



---

QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

**ガン患者の脳血管障害の退院支援**

制作著作 Copyright © 2011  
「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」  
(文部科学省 平成21年度 戦略的連携支援事業採択事業)  
新潟医療福祉大学・埼玉県立大学・札幌医科大学・首都大学東京・日本社会事業大学

原案 Portions Copyright © 2011  
朝比奈 真由美(千葉大学)

17

---



---



---



---



---



---



---



---